

2013ラグビーチャンピオンシップ～オークランド

Nkosi sikelel'iAfrika

インビクタスという映画にもなった原作。アパルトヘイトから人権を取り戻した南アフリカのマンデラ大統領の伝記ですが、映画では1995年のラグビーワールドカップを舞台に、代表チームのスプリングボックスを応援する事で国を一つにまとめる部分に重きを置いていました。けれども、活字では闘争の歴史が重々しく綴られた史実書で、後世に事実を伝える役目を果たしています。

原作を読んで、国民を熱狂させ心をつにした多民族合同の南アフリカ代表チーム・スプリングボックスのプレーする姿をライブで見たくなったので南アフリカ代表の試合が開催されるスタジアムへ行く旅を計画しました。

南アフリカやアルゼンチンは遠いし、治安の問題もあるし、言葉の壁もあるので、オーストラリアかニュージーランドが妥当な選択です。日程も考慮した結果、ラグビー王国・ニュージーランドのイーデンパークでスプリングボックスの勇姿を見ることにしました。



オークランドでは試合開催日は、お祭りムードで、チケット見せれば、列車もバスも無料。チケット持っていない人は、パブで飲みながら試合観戦です。テレビも生放送の後、再放送を繰返しオールブラックスの勇姿を周知するかのごとく流します。

前日の話。なんとオールブラックスのキャプテン、リッチー・マコウ他2名が市内のスポーツ店に登場。買い物なくてもサインしてくれます。英語だったら会話もできたはずですが、それは先伸ばしとして、オールブラックスとご対面って感じで感動しました。





左から、Charles Piutau & Richie McCaw & Wyatt Crockett

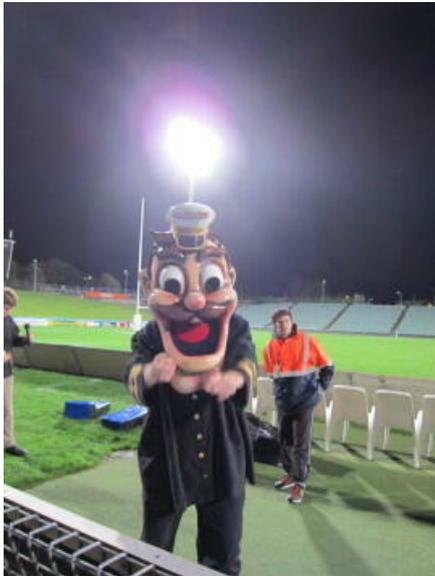


その夜はバスに乗ってアルバニーのノースハーバー・スタジアムへ。ニュージーランド版トップリーグに相当するITMカップの試合を観戦。ここは、パーク&ライドのバスターミナルがあって、緑色の大地の左手方向の彼方にショッピングモールがポツン。右手方向の彼方にスタジアムがポツン。借景として見える山すそに人家が並ぶという凄い場所です。

チケットを買って入場。モギリのお兄さんが、フレンドリーに、「ニホンのカタですか？アリガトございます。お楽しみ下さい！」と歓迎。

こんな郊外で、日本語で声かけられると嬉しくなって、ウキウキ気分でキックオフを待ちました。試合はノースハーバー対タスマン。ホームのノースハーバーは、リーグここまで絶不調で勝ち知らず。アウェーのタスマンは好調。世間の予想ではタスマン圧勝、負けっぷりを見守る熱狂的なノースハーバーサポーターが抵抗して凶式です。前半はキックで点を重ねる眠い展開、ノースハーバー善戦。ところがハーフタイムを挟んで後半、ノースハーバー予想外の猛攻。雨が降り始めたスタジアムが熱く燃え上がるかのごとき展開で、23対11と大勝利。ギャップを見つけてインゴールにねじ込む感じで、つい、立ち上がって声上げて応援してしまいました。

帰りも「アリガトございました〜！」ってモギリのお兄さん。楽しいですね王国のラグビーは。ただノーサイドの時間は22時前。明るいスタジアムからはるか彼方に浮かび上がるバスターミナルを探して、なんとか市内に戻りました。





さて、今回のメインイベント、スプリングボックス対オールブラックスの試合は、イーデンパーク。入場ゲートで見覚えのあるキーウィから声掛けられました。「昨日、ノースハーバーに来られてた日本の方ですね！」…って、モギリの兄さん、続々と入場する人波の中からひとときわ小さい私たちを良くぞ発見してくれたものだと感動。嬉しくて握手を交わし一緒に写真に収まりました。

試合開始までは、競技場内散策。フィッシュ&チップスとビールの食事、オプションツアーと一緒に行動した日本人グループを表敬訪問。応援席のサポーターの服装や応援旗などを観察。ただし、歩きまわると周辺はやたら大きな人ばかりですから、小さな私たちは障害物扱いでもみくちゃに。吉本新喜劇の池乃めだかさんじゃないけど、「見下げてごらん〜♪」なんて歌って自己主張したくなりますね。

超満員(5万人だそうです)の観衆と共に、両国国歌斉唱。リーアン・メッサムが仕切る戦いの儀式ハカ。効果システムの炎が立ち上り、待ちに待ったキックオフです。





韋駄天、ブライアン・ハバナの空飛ぶトライが見れるか、敵ボールさえ奪い取る世界一高いリフティングでラインアウトを征するアグレッシブなフォワードと、冷徹な司令塔モルナ・スタインがどこまで機能するか、スプリングボックスに注目です。

オールブラックスのキャプテンはキアラン・リード、前のゲームで怪我をしたリッチー・マコウに代わって最強軍団を率います。核弾頭のマーア・ノヌーのぶちかましが楽しみです。攻撃だけでなく防御も世界一のオールブラックスはスタンドからの大声援を味方に、どこまで点差を広げるか。

現在のIRBランキング1位対2位の世界最高の戦いは、南アフリカ2番のビスマルク・デュプレシスのダニエル・カーターへの危険なタックルによる負傷退場からヒートアップ。ただし、この判定はクリティカルなものとしてIRBでも取り上げられました。両者合わせてイエローカードが4枚、レッドカードが1枚。フランスのレフリーの判定も何度も試合を止めてTMO(テレビ・モニター・レフリー)を採用するから、流れが悪くなるばかりか、フラストレーションがたまる一方でラフプレーが増加。殺伐とした対戦となりましたが、互いに国を背負った戦いですからヒートアップも当たり前かも知れませんね。結果はキアラン・リードの2つのトライを含めて29対15でオールブラックスが勝利を手にしました。





スプリングボックスが国を背負って戦う姿も見れたし、オールブラックスの強さも確認できたし、今年
の目標達成ですが、試合の余韻にとっぷりと浸ることなく、翌朝の飛行機で日本に戻ります。翌日
のロビー集合は5時半です。

オークランド空港で、バタバタと出国手続を済ませて飛行機の出発待ちしていると、全国高校ラグビ
ー大会で花園のグラウンドを走り回った、東福岡の藤田慶和選手が偶然目の前に着席。現在ラグビー
留学でニュージーランドで生活していて、この日は日本代表の合宿に呼ばれて一時帰国するそう
です。2019年日本開催のワールドカップでは、間違いなく代表の中心選手として日本ラグビーを世界
に認知させる原動力となる人です。ミーハーですが、記念に一緒に写真に収まりました。

今回もいろんな出会いがあり素敵なラグビー旅になりました。ラグビー王国・ニュージーランド…
バンザ〜イ！！





2013年9月20日記(旅は9月8日～15日)

[Top](#)
[トップ](#)
[↑](#)

[Back](#)
[戻る](#)


[国歌斉唱～ワラビーズVSフランス](#)